



●この説明書は、取付けされる方に必ずお渡しください。掲載番号順に施工してください。

■守っていただきたいこと

電気工事は、電気工事士法に基づき有資格者が行ってください。

▲注意 …取付けを誤った場合、使用者などが中程度の傷害・軽傷を負う危険または物的損害の発生が想定されます。

▲注意



- 製品の脱落や漏水の原因となるため、下記事項をお守りください。
 - ・必ず指定のねじを指定の本数使用し、固定してください。
 - ・本体サイドカバーの引っ掛け部を必ず本体固定金具に掛けてください。
 - ・ボックス引っ掛け部を天板の溝に差し込んでからねじで取付けてください。



- 下枠・縦枠下部の水抜き穴を塞がないでください。製品の漏水の原因となります。

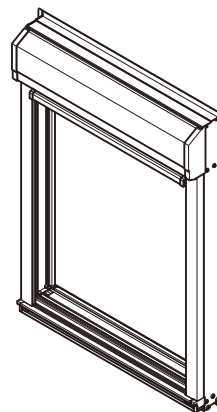


- 取付け作業は、手袋をして行ってください。素手で行うとケガをするおそれがあります。



[電動の場合]

- 漏電、感電や火災の原因になりますので、下記事項をお守りください。
 - ・AC100V配線はVVF1.6mm以上をご使用ください。
 - ・電源線、アース線は折曲げたり、挟んだり、キズ付けたりしないでください。
 - ・電気工事で、あまった電源線、アース線を本体内に戻さないでください。



※下記内容は重要事項ですので必ず点検してください。

No.	チェック内容	
1	サイドカバーの引っ掛け部を本体、固定金具に掛けましたか？	<input type="checkbox"/>
2	ロックがかかることを確認しましたか？(手動のみ)	<input type="checkbox"/>

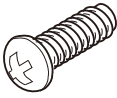


取付け前のお願い

- 枠部分の組立て・取付けには「サッシ枠組立て説明書」、「サッシ枠取付け説明書」をご覧ください。
- シャッターの作動不良の原因となるため、下記事項をお守りください。
 - ・開口部サッシ枠の水平・垂直・対角寸法を調整してください。
 - ・枠のねじれおよび下枠の上下のソリがないことを確認してください。
- 本体取付けフィンの固定の際、天板の水平が出ていることを水系などで確認して行ってください。シャッター作動不良の原因となります。

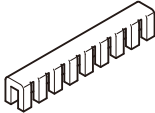

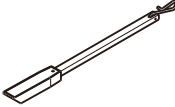
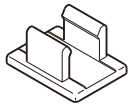

[電動の場合]

- 本製品はAC100V専用です。他の電圧は使用しないでください。
- 電気配線工事は屋内配線との接続になるので、内装工事前に配線工事をご依頼ください。
- ※シャッターの電源線、アース線は外観右側になりますので、電気配線工事を依頼される際はご注意ください。
- 障害物にあたりると停止・反転する機能に誤作動が発生する場合がありますので、瞬間式の給湯器(瞬間的に電力制御を行う電機機器)やコンセント等の電源回路と同じにしないでください。シャッター専用の回路にしてください。
- シャッター本体取付けの際、作動確認のために、AC100V(定格電圧範囲内95V～107V)を使用します。事前に、電気工事士さまなどと打合わせの上、電源を用意してください。
- 一次側AC100Vとアース線の接続に必要なジョイントボックスなどの電設資材は、別途市販品をご使用ください。
- 背板のブッシングの取付け穴の大きさに合わせて、室内側へ電源線、アース線を通すための配線穴をあけておいてください。

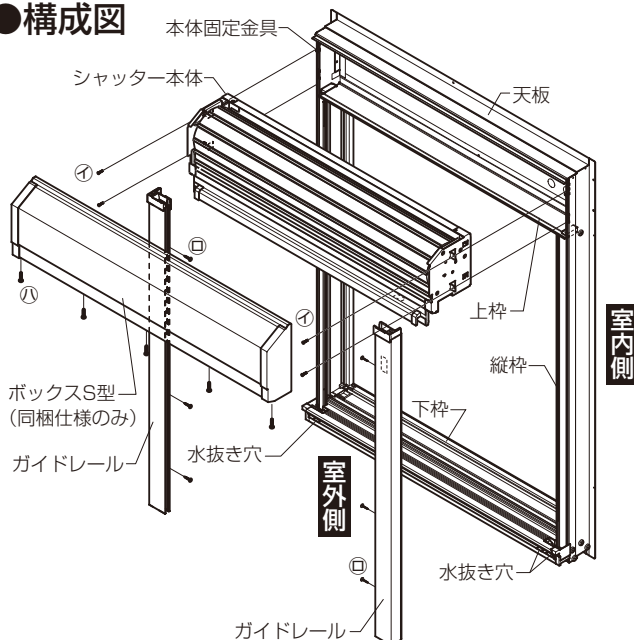
■取付け部品・ねじ一覧

本体取付け用 ①	ガイドレール取付け用 ②
	
バインド小ねじ M4×12 (D8.3)	トラスタッピンねじ φ4×8 (D9.4)
ボックス取付け用 ③ (ボックスS型同梱仕様のみ)	
	
バインド小ねじ 先付けM4×10	

同梱部品(電動のみ)

プッシング		リモコン部品セット
		
操作ハンドル	操作ハンドルホルダー	表示シール
		

●構成図



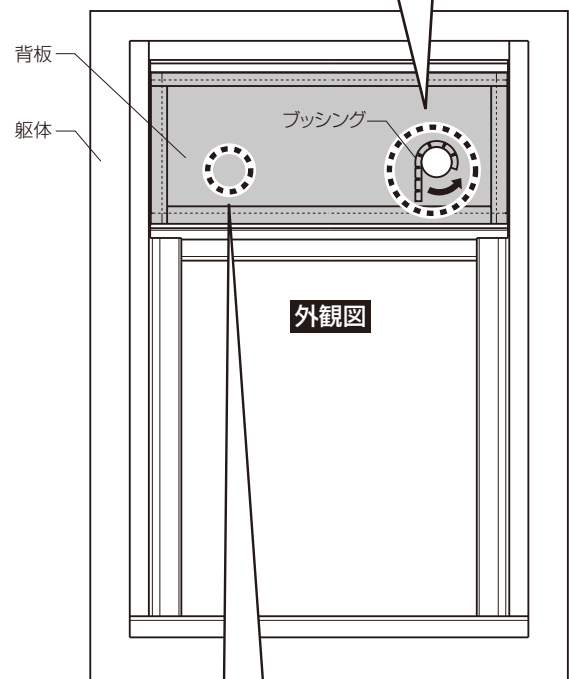
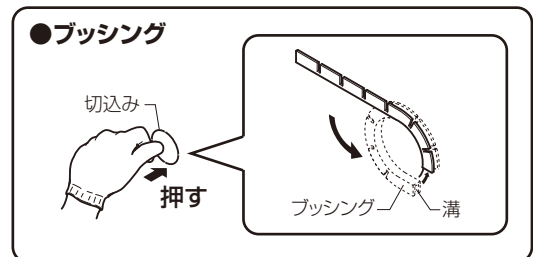
■背板へのプッシングの取付け(電動のみ)

▲注意



●取付け作業は、手袋をして行ってください。素手で行うとケガをするおそれがあります。

- ①外観右側の枠背板にプッシングを取付ける穴をあけます。
※背板にプッシング穴用の切込みがありますので、室内側に押し穴をあけます。
- ②プッシングをはめ込みます。
※プッシングの溝を穴に合わせながら全周にはめ込みます。
- ③はめ込み後、プッシングに浮きがないか確認してください。



●外観左側配線の場合



詳細は動画を参照

6282372758001

2 シャッター本体の取付け

▲ 注意



●取付け作業は、手袋をして行ってください。
素手で行うとケガをするおそれがあります。



●製品の脱落の原因となるため、下記事項をお守りください。

- ・必ず指定のねじを指定の本数使用し、固定してください。
- ・本体サイドカバーの引っ掛け部を必ず本体固定金具に掛けてください。

①電源線、アース線を配線穴から室内側へ通し、軽く引きながらシャッター本体を縦枠の本体ひと休み金具の上にのせます。

※手動の場合は、電源線、アース線はありません。

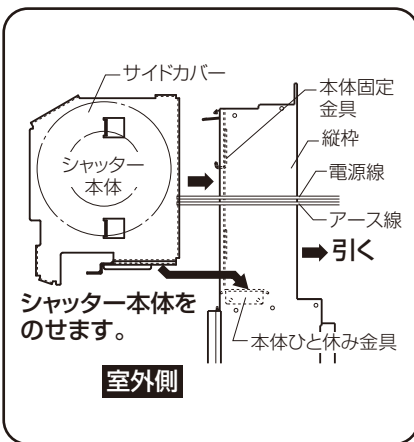
②電源線、アース線を軽く引きながら本体サイドカバーの引っ掛け部が本体固定金具にあたるまで押し込んでください。

※電源線、アース線を本体と背板の間に挟込まないようにしてください。

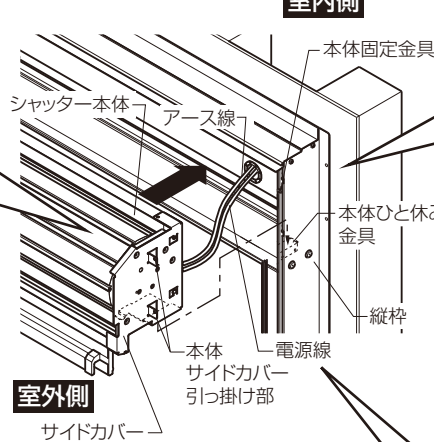
③本体が本体固定金具に掛かっていることを確認して、①パインド小ねじでねじ止めします。

●シャッター本体の取付け

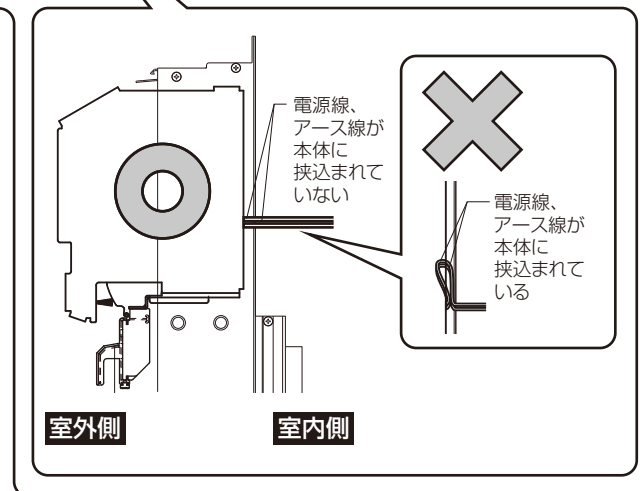
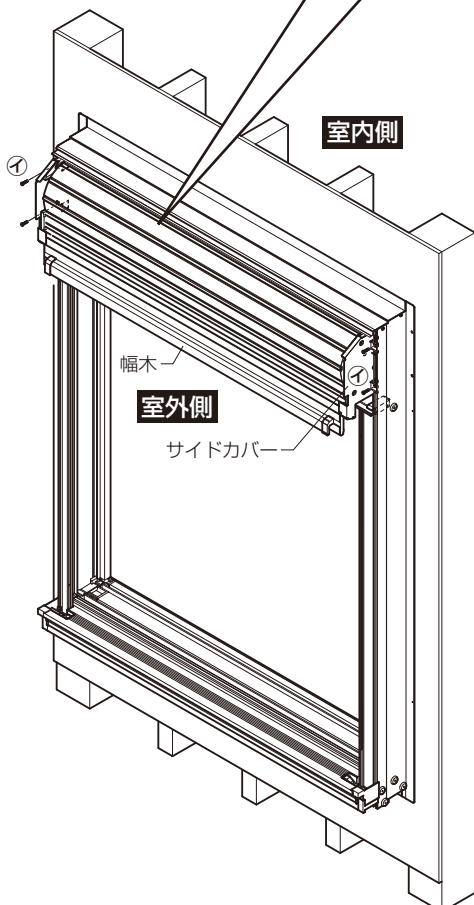
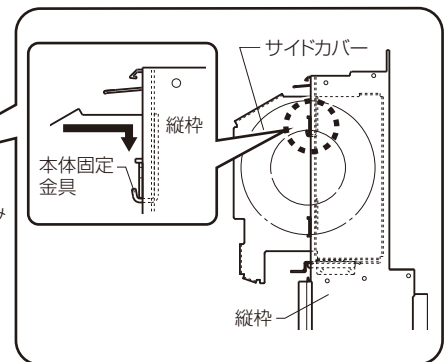
①



②



③

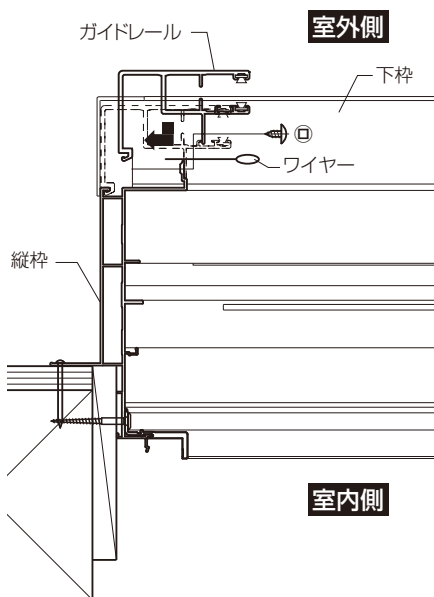
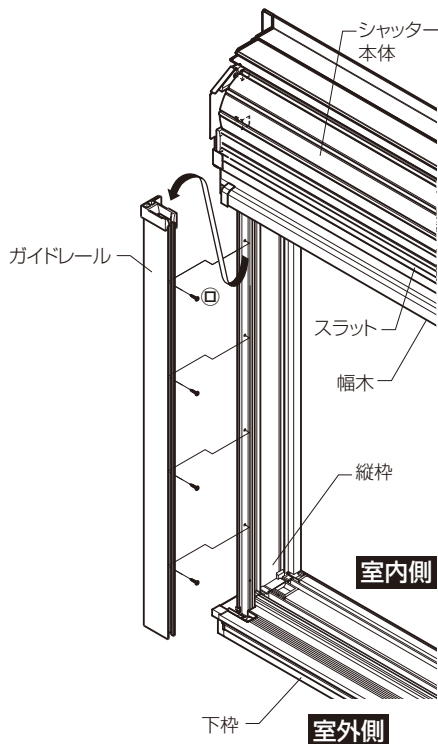


3ガイドレールの取付け

ガイドレール取付け上のお願ひ

- クラッチのワイヤーをガイドレールの外側に出してガイドレールをはめ込んでください。
- ねじ山がつぶれる場合がありますので、インパクトドライバーなどは使用しないでください。

- ①ガイドレールの上端（ガイドピース側）に幅木を引込み、そのままガイドレールの上端を本体へ挿入し、ガイドレールの下端を下枠に挿入します。
- ②ガイドレールをスライドさせ、縦枠にはめ込み、㊸トラスタッピンねじで固定します。



4シャッターボックスS型の取付け(同梱仕様のみ)

▲注意



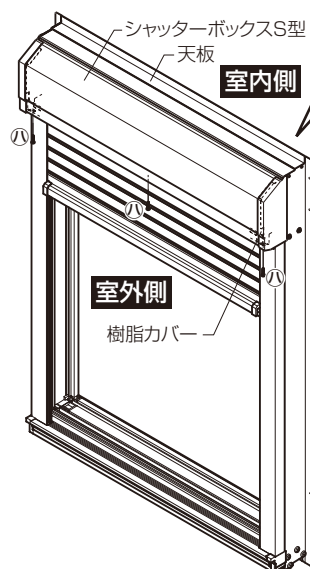
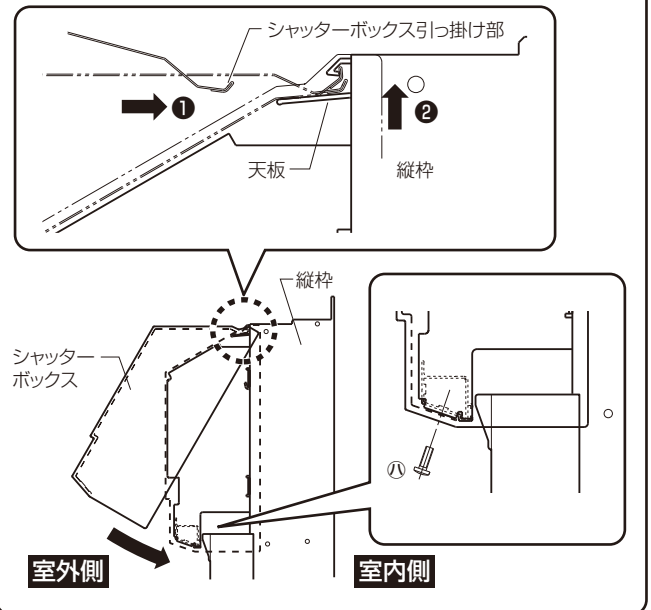
- 製品の脱落や漏水の原因となるため、下記事項をお守りください。
- ・必ず指定のねじを指定の本数使用し、固定してください。
- ・ボックス引っ掛け部を天板の溝に差し込んでからねじで取付けてください。

ボックス取付け上のお願ひ

- S型以外のボックスの取付けについては、「ボックス取付け説明書」をご覧ください。

- ①シャッターボックス引っ掛け部を天板の溝にもぐりこませ、回転させるように取付けます。
- ②シャッターボックスの下側から本体へ㊸バインド小ねじで止めます。

●シャッターボックスの取付け



目 操作ハンドルの取付け(電動のみ)

操作ハンドル取付け上のお願ひ

- 操作ハンドルは、必ず下図の向きでホルダーに固定しておいてください。(操作ハンドルが引っ掛かり、シャッター開閉不良の原因となることがあります。)

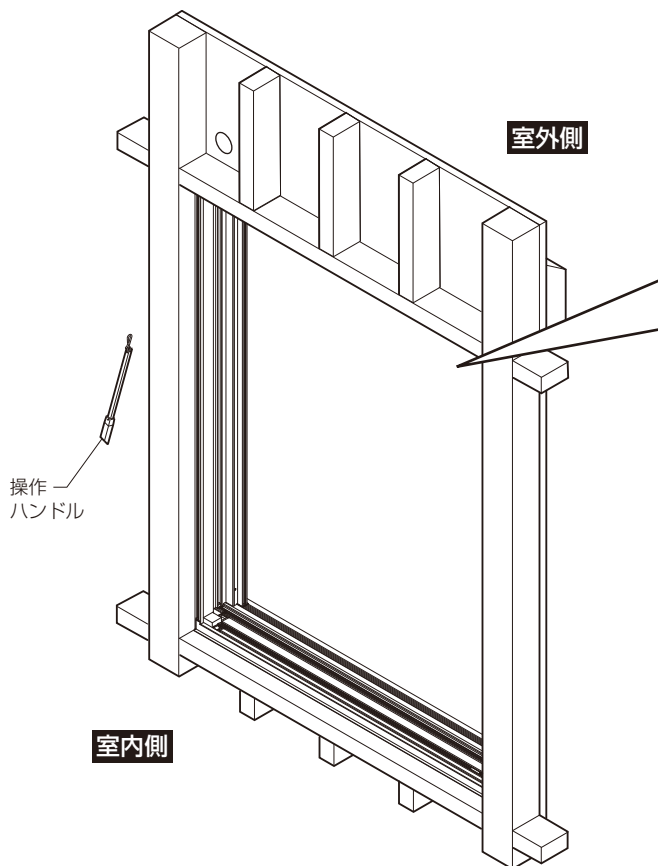
①ガイドレール上部からぶら下がっているワイヤーに操作ハンドルを引っ掛けます。

※このときワイヤーを引っ張らないでください。停電時開閉機構が働き、シャッターが電動で動かなくなります。

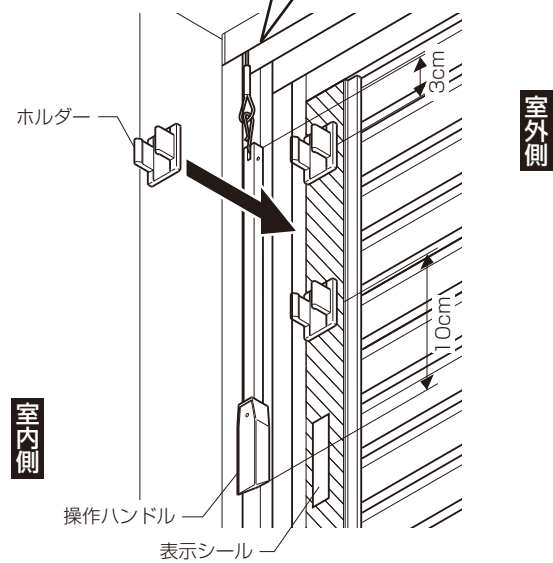
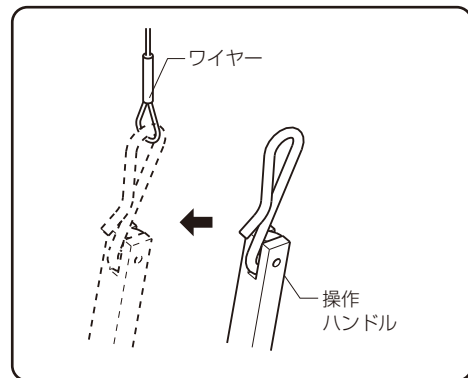
②ホルダー張付け面(下図斜線部)のホコリ・油分をふき取ります。

③操作ハンドル上端から3cm および下端から10cmの位置に、ホルダーを張付けます。

④操作ハンドルをホルダーに固定し、同封の表示シールを真下に張ります。



●操作ハンドルの取付け

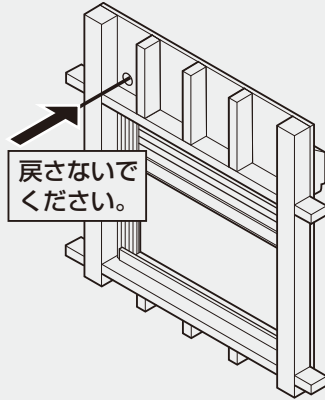


6 全開／全閉位置の設定・作動確認(電動のみ)

▲ 注意



●電気工事で、あまった電源線、アース線を本体内に戻さないでください。漏電、感電の原因となります。

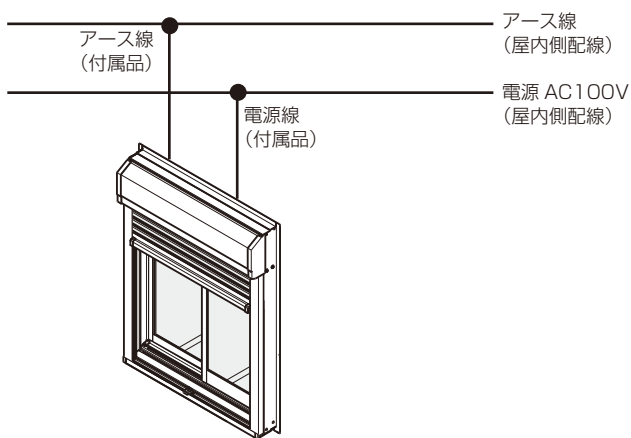


設定・作動確認上のお願

●通電後、必ず設定を完了させてください。

- ①電源線、アース線を仮結線状態にします。
※仮設電源を使用する場合は、電圧が定格電圧範囲内(95V～107V)にあることを確認してください。
- ②設定、作動確認を行います。
※設定・作動確認方法は、リモコンに同梱の説明書を確認してください。
※設定を行ったリモコンが使えるシャッターがわかるように、リモコンの梱包袋にシャッター設置箇所を記載して、リモコンを引き渡してください。
- ③設定完了後にリモコンを操作して、シャッターを開閉させます。引っ掛かりなど支障がないよう、スラットの横ズレの修正を行ってください。

■ 配線図



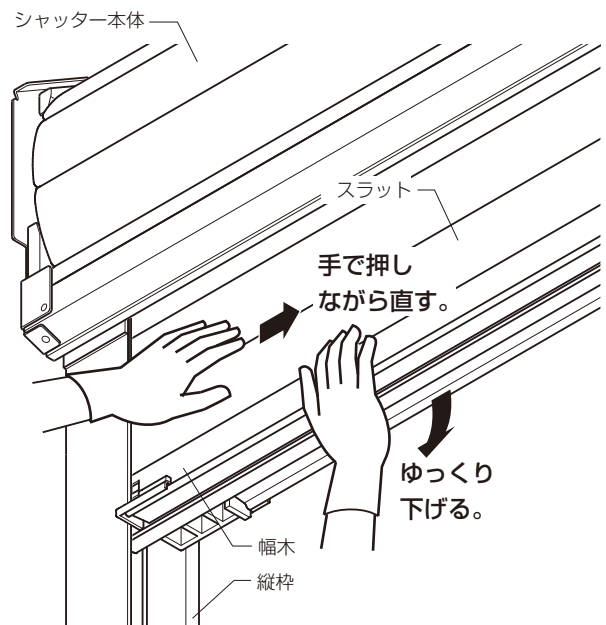
7 スラットの横ズレの修正

▲ 注意



●取付け作業は、手袋をして行ってください。素手で行うとケガをするおそれがあります。

- ①横ズレがある場合は、横ズレ個所が見える所までスラットを下げて止めます。
- ②スラットを手で押しながら直してください。
※ガイドレール・本体にスラットが引っ掛からないようにしてください。



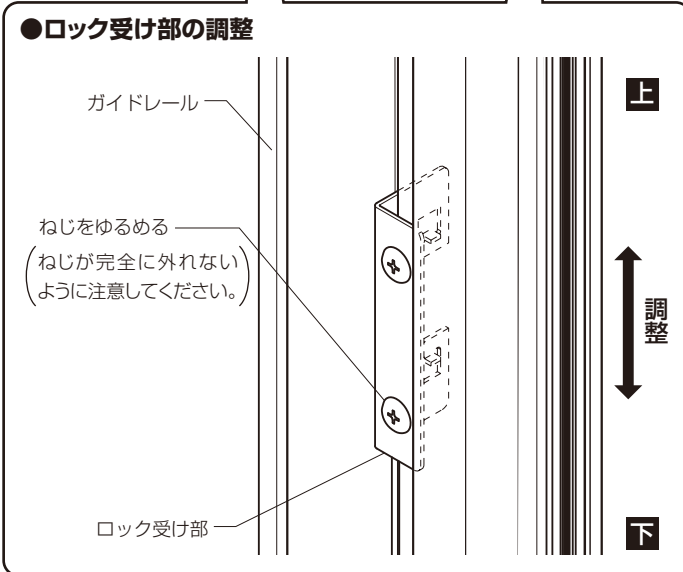
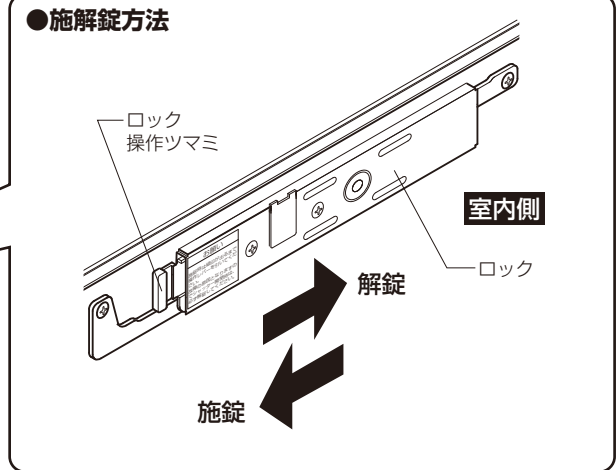
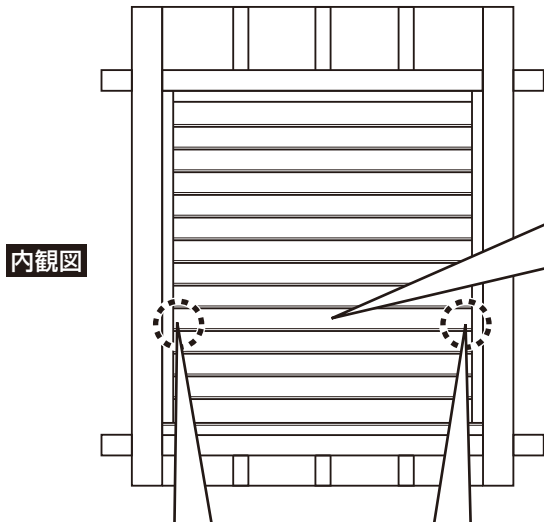
室外側

8 ロックの施錠、解錠の確認(手動のみ)

- ①スラットをゆっくり下げて、全閉状態にします。
- ②室内側のロック操作ツマミを左右に動かし、施錠および解錠ができるかを確認します。
- ③施錠および解錠ができない場合、ロック受け部の調整をしてください。

■ロック受け部調整方法

- ①ガイドレールを外します。
 - ②ガイドレール室内側面のねじをゆるめます。(ねじは完全には外さないでください。)
 - ③ロック受け部を移動します。
 - ④ロック受け部のねじを締めます。
 - ⑤ガイドレールを取付けます。
- ※ロックがかからない場合は再度微調整してください。



■ 施行後のお願い

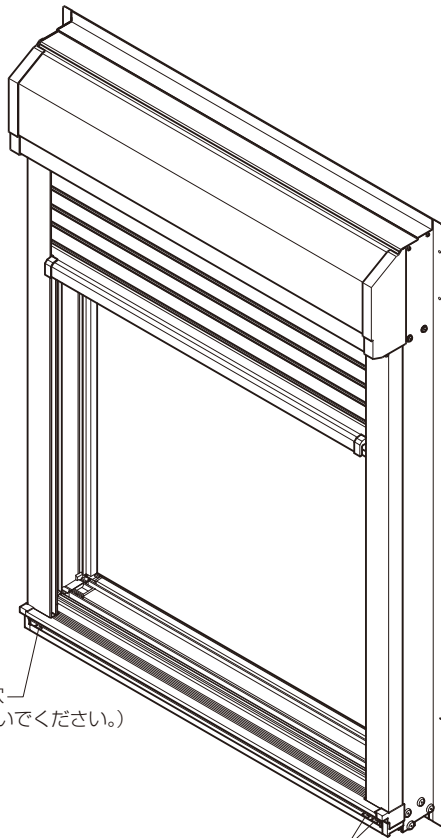
▲ 注意



- 下枠・縦枠下部の水抜き穴を塞がないでください。製品の漏水の原因となります。

施工後のお願い

- メンテナンスを行うため、下記事項をお守りください。
 - ・ 軒天点検口を設けてください。
 - ・ ボックス(点検口)・ガイドレール取り外せる構造にしてください。
- 壁仕上げの際、製品を傷めますので、下記事項をお守りください。
 - ・ 製品にモルタルと付着させないでください。
 - ・ モルタル剥離剤を使用しないでください。



水抜き穴
(塞がないでください。)

水抜き穴
(塞がないでください。)